国立国語研究所学術情報リポジトリ

隠岐の島方言のつどい：あいさつ

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2019-11-29 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.15084/00002492

隠岐の島方言のつどい

あいさつ

教育長　山本　和博

（山本）　皆さん，こんにちは。実は今日のこの方言の集いをやるに当たって家内と夕べちょっと話をしてきていまして，隠岐弁の話をしていました。私は隠岐弁の中で「おしまいさんです」という言葉が大好きです。「おしまいさんです」という言葉を標準語に直すとどうなのかという話で,「ご苦労さんでした」というのもニュアンスが違うような気がします。「こんばんは」とも違うような気がします。

そうするとやっぱり「おしまいさん」に当たる標準語が見えないんですよ。もしかすると私は言葉を知りませんからあるかもしれないけど，私は分かりません。やっぱり隠岐独特のこれは言葉だな。今，最近あんまり聞かれるところはなくなりましたけど，この言葉が僕は大好きです。

もう 1 つ言葉のことで思い出すのは，僕は大学は信州の方の大学に行っていまして，行くなり実は自転車に乗っていて事故って，この辺がすごいすり傷になりました。そのときに大学の中の養護の先生のところに行って治療をしてもらったときに，昔はオキシフルを塗りました。そのときにがいな声で,「はしる」って言いました。そうしたらその先生が染みるでしょうと言われたんですよ。

僕は「しみる」というのは，寒くなることが「しみる」と思っていましたので，いや,「はしる」ですと言ったら，そげな言葉，そげな言葉とは言われなかったですけど，こちらでは使いませんよと言われたことを覚えています。「はしる」というのが初めて我々が使っている言葉だけど，全国的な言葉じゃないことが分かったということを覚えています。

やっぱり方言というのは，その地方の文化とか歴史を表す非常に大事なことだと思います。去年から今，木部（暢子）先生が国文研の方を引き連れて隠岐の 4 カ所で方言の調査をしてくださいました。私はそういうのに非常に興味がありますので，調査を見に行きました。そうすると，こういうところに中村の方が 1 人ぽつんといすに座ります。こちらに国文研の方たちが 5 人ぐらいおられます。それで調査を最初されていました。

調査が終わった後，中村の方にどうでしたかと言ったら，めちゃくちゃ緊張しましたと言って，ちょうど面接試験と同じ状況で一生懸命きれいな言葉を話されようとしているんですよ。それだと普段の隠岐弁が分からないことはないかなと思って，木部先生にちらっとお話ししたことがあります。

やっぱり我々は標準語で話すことがおもてなしだみたいな，それから西郷弁を話すのがちょっと恥ずかしいみたいな私は気持ちを持っています。本当は方言というのは，我々のさっき言った文化や歴史を背負った言葉ですので，自慢してしゃべってもいいんだけど，方言を何か恥

ずかしいものだと今まで私どもはとらえてきました。

私は学校の教員をしていましたが，子供が方言をしゃべったときに，これはこう言うんだよと標準語に指導したこともあります。やっぱり大事な方言というのは文化を背負ったものですので，我々は大事にしていかないといけないんじゃないかなと今感じております。

そういう意味で今日こうして平子先生と，友定先生に研究の調査についての結果を発表していただきます。どういう発表になるかすごく楽しみです。それともう１つは，特別大先生として吉井先生と坂本先生に，役に立つ隠岐弁を指導してくださるということで非常に楽しみにしております。隠岐弁のよさを今日は皆さんと一緒に勉強したいと思います。どうぞよろしくお願いします。（拍手）